

【公共事業関係費】

【空港整備事業】  
(直轄事業)

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、 コスト削減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)		
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B/C	
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳						
福岡空港滑走路 増設事業 九州地方整備局 大阪航空局	長期間 継続中	1,643	3,375	1,665	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安定的な輸送機能を確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港の混雑を緩和し、定時性を確保することで、福岡訪問客の快適な旅行を支えるとともに、ビジネス需要への適確な対応が可能となる。</li> <li>・滑走路一本の状態が生じる航空機トラブル等による滑走路閉鎖時にも、もう一本の滑走路による運用が可能となる。</li> </ul> </li> <li>■安全・安心の確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の移動手段機能が向上する。</li> </ul> </li> <li>■観光・MICEの促進、地域経済への波及効果                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性の高い時間帯（ピーク時間帯）に新規就航便や増便が可能となり、福岡空港の利用を諦めていた利用者を獲得することで福岡・九州の経済・交流の発展に寄与する。</li> <li>・国内外の他地域からの入域客数の増加が期待される。また、入域客数の増加は、他地域との交流を活性化させるとともに、九州観光を促進させ、観光消費の増大をもたらす。</li> <li>・集客交流の活性化により、関連産業の雇用機会の拡大、企業生産や地域所得の増大が期待される。</li> <li>・国際線の増加により、国際会議等（MICE）の誘致・開催の促進と外国人ビジネス客の取り込みが強化される。</li> </ul> </li> </ul>	<p>・事業採択後5年経過して継続中の事業であるため再評価を実施</p> <p>【投資効果等の事業の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡空港は、滑走路1本で平成30年度には2,485万人の旅客が利用しており、国内の滑走路1本の空港としては旅客数・発着回数ともに第1位である。</li> <li>・また、近年、新規路線開設・増便が相次ぎ、旅客数・発着回数ともに増加傾向にあり、ピーク時間帯を中心に混雑や遅延が常態化しており、多くの利用者が時間的及び経済的損失を強いられている。</li> <li>・将来的にはさらに需要が伸びると予測されており、滑走路1本のままでは、将来の航空需要への対応が厳しい状況にある。</li> <li>・よって、混雑・遅延の緩和、将来需要への適切な対応、地域経済発展への寄与等のために、滑走路増設により空港能力の向上を図る必要がある。</li> </ul> <p>【事業の進捗と見込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業進捗率32%</li> <li>・用地取得率69%</li> <li>・令和7年3月末の供用開始を目指し事業を推進する。</li> </ul> <p>【コスト削減や代替案立案等の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点において代替案等の可能性はないものの、コスト削減については、今後の事業実施に際して適切に対応していく。</li> </ul>	継続	航空局 航空ネットワーク部 空港計画課 (課長 小池 慎一郎)		